

とよ・たち 美肌通信

9月号

Vol.26



今月号の表紙は、9才の男の子が書いてくれた作品です。
表紙に書かれた「星」という字は、
習字の練習をしていた文章の中にあった文字だそうで、
先生にほめてもらえた字だそうですよ！



豊郷 Tachikawa Clinic

たちかわ皮膚科クリニック*

8月某日朝、クリニックの東門にアブラゼミが仰向けになっていた。死んでいるのかと思ひ拾い上げるとジージーと鳴いている。まだ生きている。それを私は植栽の葉の上に乗せた。7年余りも土の中でじっと耐え、その後地上に出て1~2週間足らずの命をこのセミは終えようとしているのだろうか？

人の一生からすれば儚いのだろうか？いやもしかすると人間よりも懸命に命を燃やしているのではないだろうか？

私は幼稚園の時、思ったことがある。僕はどうして人間に生まれてきたのだろうか？と。よく考えてみれば地球にはありとあらゆる生命が宿る。動物以外にも生きているものはいくらでもいる。

その中で自分は、ミミズや犬猫・将又先程のセミの様な昆虫ではなく、何故人間としてこの地球に生まれてきたのだろうか。ミミズやセミだって一所懸命に生きている。せっかく人間とに生まれてきたのだから一所懸命に生きよう。今の私が一所懸命に生きるということは、このクリニックに来て下さる患者様と真剣に向き合うこと。そして、症状改善へのお手伝いをする事。

以前にも「とよ・たち」で書きましたが、「人は仕事の中でしか成長しない」と私は思っております。

もちろん、ここでいう仕事とは代償として金品が発生することばかりでなく、「仕」「事」の字が示す通り、「つかえる」という事です。では何につかえるかということ「社会」につかえるのです。つまり人は社会の中で成長していくのであって決して一人で成長していくものではありません。

少々話がズレましたが、セミに負けぬ様に命を燃やすという事は懸命に仕事をする。そして仕事をすれば成長がある、人生が開けてくると私は思います。

「人生を開いた人には全て共通した心構えがある」

とある本に書いてありました。

- ①物事を前向きに捉える。
- ②素直になる。
- ③感謝の念を忘れない。
- ④愚痴を言わない。

< 私なりの解釈 >

①について：人生に困難は当たり前。人生の要諦は心術（心の持ちよう）にある。

ケネディー家のモットーにもこうある。

When the going gets tough, the tough get going.

（状況が困難になった時、タフなものが道を開く。）

②について：社寺建築の第一人者である小川三夫さんは弟子時代、棟梁の言葉に全て

「はい」と従ったそうです。小川さんはこう言います。

「批判の目があっては学べません。素直でなければ本当の技術は入ってこない」と。

③、④について：人間は 10 ある出来事のうち 9 つも幸せな事があり、辛い事や嫌な事が
たった一つしかなくても、その一つの事を口に出して愚痴を言う。

9 が幸せでも感謝することを忘れてしまう。

ある夏の日、アブラゼミを拾い上げたことで気付かされました。アブラゼミに恥ずかしくない命の燃やし方をしないといけないと思った出来事でした。

院長：刀川